

令和2年度

不動中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人が輝き、自尊感情を高めるために、主体的・対話的な深い学びを実現するための授業改善から、確かな学力を育成する。

①「基礎的・基本的な知識・技能の定着」  
②「家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	吉成昭彦(校長)	岩佐隆義(教頭)
		吉田則子(教務・研修)	清水英伸(3年主任)
		佐藤康徳(2年主任)	斎藤雅紀(1年主任)
篠原 明子		小倉裕美子(特支コーディネーター)	

校長

吉成 昭彦



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返り等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「漢字を読む」など基礎的な内容は、成果を上げており、式の計算等の数学において基礎的な技能を上げようと努力できる。 ●各教科、基礎的・基本的な知識技能が不十分なまま、授業を受ける生徒もいる。	・朝学習や家庭学習で復習に取り組むことができる。 ・言葉に親しみ、自分の考えを整理して記述したりすることができる。	①スモールステップでの小テストの実施と、小テストに向けての個々への支援 ②授業ノートの確認とノート指導の実践 ③モジュール学習を取り入れた朝学習の実施	・モジュール学習において反復して習得した知識や技能の定着状況を確認できる場面をつくる。	・1年生においては目標を達成することができた。各教科においては55%に満たない教科もあった。 ・小テストの正答率については、1年生では8割強で達成できたが、2、3年生では5割強で達成することができなかった。	・授業では、基礎・基本的な知識の習得や定着のための授業改善や基本的な知識や技能を活用した学習課題を設定し、活用の場を増やしていく。 ・モジュール学習を引き続き実施し、その成果の体得や、実施方法の工夫・改善を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業ノートをまじめにとり、学習課題について、知識・技能を活用しようと、まじめに取り組むことができる。 ●学習課題に対して、思考・判断して、筋道をたてて文章を書く力や表現することを苦手としている。	・学習課題に対して、知識技能を活用させながら、粘り強く考え、根拠を示しながら、自分の考えを表現することができる。	①アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を行う中で、自力解決の時間の確保と話し合いや発表の場を設ける。 ②各教科において、文章を書く機会を増やし、条件にあった表現力を身につけさせる。	・生徒が根拠を明確にして学習課題の解決方法や考えを述べる時間を確保する。さらに考えを比較したり参考にしたりする機会を設ける。	・「自分の考えを文章に書いたりするのが得意だ」(生徒アンケート)の全体平均が44%となり、昨年度の37%から少しだが上昇が見られた。	・授業での学習課題の設定や、興味関心を持続させる手立てや支援の仕方を研究していく。 ・自分の考えを整理しやすいよう効果的に思考ツールを提示し、説明や発表しやすい支援をしていく。 ・ペア・グループ学習を学習課題によって効果的に変えて、自分の考えを他者との比較や参考により深めていく学習をさらに展開していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集団生活のルールを守って生活することができる。また、朝学習に静かに取り組むことができる。 ●わからないことをそのままにする傾向があり、宿題等、提出物の締切を守れない生徒がいる。また、家庭学習において、主体的・継続的な習慣が確立されていない。	・チャイムで授業が開始でき、授業には準備を整えて取り組むことができる。 ・家庭学習の方法を身につけ、課題や自主学習に積極的に取り組むことができる。	①学習のめあてを授業の始めに明示すると共に、学習のふりかえりを全教科で実践し、学習の自覚化をさせる。 ②宿題一覧表を教員と生徒が情報を共有しながら、計画的な家庭学習につなげる。	・授業で使用するワーク類を宿題として提出させ、基礎基本の定着を確認する。 ・授業の振り返りにおいて、個々の振り返りだけでなく、授業のポイントを生徒全体で共有させる。	・「チャイムの鳴り始めから授業を開始できた」(生徒アンケート)から、ほぼ全員の生徒が達成できた。 ・「何を学んだかを実感することができる」(生徒アンケート)を約8割の生徒が肯定的に捉えている。	・引き続き、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善として、ねらい(めあて)を生徒に把握させることで主体性を持たせていく。 ・家庭学習の確保に向けて、保護者とも連携し、家庭学習の習慣の確立に努める。

令和2年度 学力向上ロードマップ

